

(別紙2)

審査の結果の要旨

氏名 スロヴェイ ヴィヤチェスラヴ

本論文には二つの目的がある。第一の目的は、話者の文化や習慣と密接に結びついている文化的キーワードを抽出し、その意味を分析することである。そして、第二の目的は、その分析結果を、文化的キーワードの「翻訳可能性」の検討に応用することである。論文全体を通じて、著者が母語とするロシア語・ウクライナ語に加えて、日本語と英語からの具体的な例が検討されている。

ここで扱う文化的キーワードとは、話者の属す文化にとって重要な概念を表す名詞である。これはそれぞれの文化に固有のものであるがゆえに、他の言語への正確な翻訳は困難であると普通考えられている。本論文では、「運命」という言葉で括られる類義語群（ロシア語 *судьба* 他、ウクライナ語 *доля*、英語 *fate* と *destiny*、日本語「運命」「縁」「運」）や、日本文化における「迷惑」「世間」「義理」「人情」といった一連の関連語彙など、様々なものが取り上げられている。

具体的な分析に先立って本論文では、従来試みられてきた主要な方法がまず吟味されている。特に重視されるのが、NSM (natural semantic metalanguage) による分析、認知意味論的なアプローチ（特にプロトタイプ理論やイメージ・スキーマ）、そして概念メタファー論である。著者はこれらの方法を参照しながらも、独自の分析手法を考案し、概念領域（ターゲットドメイン）と、概念の意味を構成する起点領域（ソースドメイン）が形作る、ツリー状の階層構造を提示する。そして起点領域は概念領域よりもシンプルな、自然言語の中の他の単語であると想定した上で、起点領域を調査することによって、その上位にある抽象性の高い概念の意味に関する情報が得られることを、具体的な単語の例に基づいて明らかにした。またどんな単語が起点領域にあるかを突き止めるためには、言語コーパスや連語抽出ツールを用いて、連語（共起関係）を調べるという実証的な作業が有効であることも、実例に即して証明している。

本論文の分析の成果は、外国人にとって理解が難しい文化的キーワードの習得およびその外国語への翻訳にも応用が可能なものであり、様々な概念のソースドメインを正確に把握することこそが、外国語習得のためにも、正確な文芸翻訳のためにも決定的に重要であるというのが、本論文の理論的分析から導かれる応用面での結論である。ソースドメインとして想定される単語は数多くあるが、ここで具体的に分析されたのはその一部に過ぎないため、本論文の主張も仮説にとどまっている側面があることは否めない。今後さらに多くの例に基づいた、実証的調査の裏付けが必要であろう。しかし、本論文は幅広く先行研究を踏まえたうえで独自のアプローチ方法を編み出し、4つの言語の具体的な例に基づいて説得力のある分析を行っている。発想の独創性・分析の緻密さに関しても、また翻訳論や比較文化論などの隣接分野への応用可能性の高さから言っても、本論文は博士（文学）の学位に相応しい優れた研究であると、審査委員会は全員一致で判断した。